



歴史に名を残した秀吉の軍師・官兵衛の足跡をたずねて

コースNo. 19

所要時間



ごちやく
黒田官兵衛ゆかりの地めぐり・御着

若き官兵衛が城主小寺政職にその才能を認められ、側近として仕えたのが御着城。かつての城の縄張り図を見ながら歩いて当時の様子を感じてみてください。



1 庚申堂



1 庚申堂からみる火山



2 大歳神社



3 延命寺



3 延命寺



4 御着城址跡碑



4 御着城址 (姫路市東出張所)



5 黒田家廟所



6 小寺大明神



7 徳證寺



A 壇場山古墳



B 播磨国分寺





若き官兵衛が城主小寺政職にその才能を認められ、側近として仕えたのが御着城。かつての城の縄張り図を見ながら歩いて当時の様子を感じてみてください。

御着へのアクセス

JR姫路駅から御着駅で下車
(普通で神戸方面へ1駅4分180円)

「国分寺」信号を左折

あまかわばし
天川橋・今昔



ひのやま
火山



御着城縄張り推定図
点線部分が堀があった場所です



1 庚申堂・保存樹大榎

榎は樹齢600年、700年とも言われ、姫路市の保存樹に指定されています。天正7年(1578年)12月羽柴秀吉の軍勢が、御着城を守る城兵と戦ってきた様子を眺めてきた榎といえます。大榎の側に、庚申堂があります。ここから南を見ると「火山」が見えます。この山は秀吉が御着城攻めの際に陣を置いたところです。

2 大歳神社

御着村の氏宮で、創立時期は不詳ですが、国内神名帳に飾東郡吾馬負神とあるのは大歳神社とされています。拜殿に天保、明治、大正以来奉納の絵馬が数多く掲げられていて、歴史絵巻を見るようです。

3 延命寺

天台宗に属し、円仁慈覚大師自ら本尊阿弥陀如来像を刻み、建立された寺で、往古は延暦寺の別院と称した寺であったが天正の兵火でことごとく焼失しました。その後衰微していたが宝暦8年(1758年)に本堂が再建され隆盛を取り戻しました。

4 御着城址

お城の形をした姫路市役所東出張所が建つ場所一帯が御着城(茶臼山城、天川城とも呼ばれる)でした。赤松氏の一族で西播磨最大の領主だった小寺氏の本城。小寺政職にその才能を認められた官兵衛は、家督を継ぐまで御着城で政職の近習として仕えました。御着城跡公園内には、黒田官兵衛の顕彰碑が建立されています。

5 黒田家廟所

黒田官兵衛の祖父・重隆と生母・明石氏を祀る廟所。先祖は、御着城主小寺家に仕えた家老でした。かつて⑤のあたりにあった心光寺に葬られていたそうですが、後に官兵衛が二人の縁のあるこの場所に建てたそうです。

6 小寺大明神

御着城主小寺家三代とその家臣を祀っています。毎年4月29日には黒田家、小寺家、天川家の関係者が全国から集まり、祖先慰霊の大祭も行われています。

7 徳證寺

寺伝によると国分尼寺で、毘沙門池の畔にあったといわれています。元は真言宗でしたが、明応5年(1496年)春住尼妙法が蓮如上人の法話を聞き真宗に帰依し、帰国後、国分寺村内に寺を移転しました。現在地には小寺政隆の子則職の時代に移されました。

甲南タクシー	0120-648-419
城南タクシー	079-223-1181
しらさぎタクシー	079-288-3223
はくろタクシー	0120-037-896
姫路タクシー	0120-118-123

TAXI
近くの
タクシー会社

ほかのよってくだんコースへ

コース No. 19 妻鹿 タクシーで 約7 km
(料金目安 2,600円)
みどころ/黒田職陣廟、国府山城跡

ちょっと寄り道。

A 壇場山古墳

壇場山古墳は、場山、上山、霞野の千壺などとも呼ばれている5世紀中頃の周濠を持つ前方後円墳です。大きさは全長142.8m、後円部の直径は83mもあり、兵庫県下では神戸市の五色塚古墳に次いで、篠山市の雲部車塚古墳とともに第2位の大きさです。



B 牛堂山国分寺

天平13年(741年)、天皇の命令によって真言宗の寺院として再建された牛堂山国分寺は、かつての国分寺の跡地に建立されたことが知られています。阿閉城の戦いの後、毛利の大軍が上月城を囲んだため、秀吉らは救援に赴いたが、その際に乗じて別所勢が姫路城を陥れようとしたため、官兵衛は急ぎよ姫路に引き返し、国分寺に拠って撃退したと伝えられています。

